

しんかんせんが、うらやましい 梨田元氣

「しんかんせんが、うらやましいなあ」
 ぼくは、ふつうのでんしゃだよ。
 ちいさなまちで、まいにち、はしっている。
 「しんかんせんって、かっこいい。ビューン
 と、はしって、とおくのまちにもいけるんだ
 それにくらべて、ぼくなんか、ゴットンゴ
 ットン、のろのろと、せまいまちのえきを、
 いったりきたりの、くりかえし。
 「なんだか、つまらないや」
 ぼくは、げんきをなくしちゃった。
 そして、あるひのこと、ぼくは、はしって
 いるとちゆうで、プシューと、おおきなおと
 をさせて、とまってしまった。
 「たいへんだ、でんしゃが、こしようした」
 うんてんしゅのおじさんは、びっくり。
 ぼくは、でんしゃの、しゆうりこうじよう
 に、はこばれた。
 「わっ、あれは！」
 しゆうりこうじように、きいろのしんかん
 せんがいる。

「ドクターイエローさんだ。すごいなあ」
 ドクターイエローさんは、せんのようす
 などをしらべて、みんながあんぜんに、しん
 かんせんのにのれるように、はたらいている。
 「こ、こんにちは。ドクターイエローさん」
 ぼくは、きんちようして、あいさつした。
 「はい、こんにちは」
 ドクターイエローさんは、にっこりほほえ
 んで、ぼくにこたえてくれた。
 「なぜ、ここにこられたのですか？」
 「てんけんのためだよ。にんげんが、びよう
 いんで、いろいろと、みてもらうようなもの
 さ。おかげさまで、どこもわるくなかったよ
 「おげんきで、なによりです」
 「ところで、きみは、どうしたのかな？」
 ぼくは、おもいきって、「しんかんせんが、
 うらやましいです！」って、いってみた。
 すると、ドクターイエローさんは、やさし
 いこえで、ぼくにいった。
 「わたしは、きみが、うらやましいよ」

「えっ、どうしてですか？」
 「きみは、まいにち、たくさんのおきやくさ
 んをのせて、はしることがができる。わたしは
 おきやくさんをのせることは、できないよ」
 「それに、わたしたちしんかんせんは、せん
 ろのそばにさく、きれいなおはなをながめな
 がら、のんびりはしることも、ゆるされない
 「わたしたちは、たまには、ふつうのでん
 しゃのように、ゆっくりはしってみたいなあ
 って、いつも、はなしているよ」
 「そうだったのですか。ぼく、ぜんぜんしり
 ませんでした」
 ぼくは、じぶんが、はずかしくなった。
 「だから、きみは、わたしたちのあこがれさ
 ぼくは、げんきいっぱいでおれいをいった
 「ドクターイエローさん、ありがとう！」
 「ぼく、もう、だいじようぶです」
 きようも、ぼくは、ちいさなまちで、ゴッ
 トンゴットン、のろのろと、はしっている。
 たいせつな、おきやくさんをのせて。